〔一〕　第三千四百六十三號　〔日曜日〕　磐城新聞　昭和七年六月二十六日　第三種郵便物認可

泥試合の理論的敗北

片寄對島田の論爭について

美澤光夫

B

島田君も知つてゐるだらうと思ふがプロレタリヤの假面を蔽ふてプロレタリヤの味方面をして敵であると云ふ現實的實相を……君には現在文戰や黒戰が眞正なプロレタリヤ文學だと見えるのであらうか、かつての混迷せるプロレタリヤ文學時代の事にもせよ現在の海岸線の表面的活動の價値立體として取上げてゐるのは憤激を越してコッケイである。

プロレタリヤ文學理論を表看板として詩南社と論爭をまじへてゐる海岸線は先づ詩南社と云ふ色逆ひの文學サークルを批判する前に自己の活動部隊を認識せねばならぬ、プロレタリヤ文學はプロ作家を招いて文藝講演會や脚本朗讀會を開催したりする事は其の全幅的な問題ではない所謂傍ケイ的問題であるむしろそれを通じの組織の擴大强化である。その爲にプロレタリヤ文學は目的意義的活動のそして又中央集權主義的活動の重要性を强調せねばならぬ。だからそれ等の催しものは組織的活動のモオメントとならなければならないその爲には現在の海岸線はもつと果敢なる鬪爭の分野にその輝ける全貌を現はしてゐなければならない。然るに現在の海岸線は名こそあれ何等の活動せず現在の重要なる階級に於てその晃惡き屍を文學活動の分野にさらしてゐるのである。

プロレタリヤの決定的勝利が唯だ時の問題として取り殘されてゐるやうにプロレタリヤ文學の既成文壇に勝利を得る事は既成文壇内でも認めてゐる位であるが今更新しがりやの話題の中心となつた處で初まらない、海岸線のプロレタリヤ文學活動分野を見る時そのプロレタリヤ文學の名に於てなすもの必ずプロレタリヤ文學の味方ではない。

島田君の背景はこれである。最初にも言つた通りプロレタリヤ文學は少しでも（既成文壇でも然り）理解のある人々であるならばこの人身攻擊を主要目的とした泥試合が如何に無意味であり無價値であるかは知らないものは無いだらう、しかも兩君ともがプロレタリヤ文學に理解がありそうしたイデオロギーの所有者である二人が何故こうした泥試合をするか？答案は單純だ二人共が自負する程のイデオロギストでない事である。しかも片寄君が盜作をしたといふ事で吉田市君まで證人みたいな形で引張り出す島田君の心境に立つては話にならない。こうした事實が有つたにもせよ、そんな事は言ふべきものでなく吉田君を出すと云ふ事は吉田君に取つては迷惑も甚だしいものであると思ふ。

兩君にしてプロレタリヤ文學の理論家として自負するならばプロレタリヤ文學の使命と相互の任務が何處にあるか、現段階に於て如何に行動すべきかを考察すべきではないかと思ふ。

時代警語

○魚を嗜んで魚を受けず……（事類全書）

或人、魚を鄭の相に餽る、鄭の相、之を受けず、或人魚を嗜まざるかを問ふ、答へて『吾れ、魚を嗜む故魚を受けず、魚を受くれば祿を失ひ以て魚を食ふ事を得ず、今受けざれば祿を得て終身魚を食ふ事を得』と

磐城歌壇

平町　山村茂雄

○むらぎも　2

○戀すれば戀する程に我心清くなりゆくをせめて慰む

○おもかげを胸に抱くすらたえ難き壓迫を感ずる我なり

○汽車に飛びこんで身も骨も碎けししゆん間の心を思ふ

○此のままに寢りつつ死んで行きたしと思ひつつねしにいつかねむれる

社會の今日

○高原に咲く草花や夏の霧　草冬

年更けた處女の上に氣がひかれ惱みが續く林檎の木の下　鳴海　要吉

植田から

植田生

西側に掛けられた竹の棚にブドウの新芽が氣持ち良く伸びて、下に名も知れぬ草花が馥郁たる香を放つてゐる植田物産會社、山崎氏鈴木町議等外數名の御歴々が何時もの如き快氣焔を吐いては居られた。其の傍らでは二組の將棋が王手、飛車取りとカン高い聲を放つて戰鬪が開かれてゐる、一寸室内に這入つたゞけで、風に薬裏の返るやうな、すが〳〵しい氣分が味はれたこの御歴々がこの將棋の戰術を以つてして驅て政戰への應用自在を極める力が培はれるだらうことを思ふ時記者は今更の如く、うつとりさを感じて見守つてゐた。歴史に將棋のことに就藏の書籍をお拂ひなされ多

指華微笑

◇一日に一人强の退學。正視出來ぬ平町の悲しい數字

◇何より先に下水

◇賍品の四百反を情夫が行商、家内分業の豪華版

◇久濕振りに思ひ

水不足

◇出された沛然の文字。痛快な今日の驟雨

◇而も慈雨。田も畑も滿目生々。完全に救はれた

◇を。とけふ當局へ雨師の啓示

講談

お蘭陀お蝶

(65)　渡邊默禪作

布施長春畫

き恁ふは書いてあつた『黒分の合力金を難澁者にお恵みなされまして以來、いや爲め孝高を召して相手となつたもの天滿町の聖人樣、天保の御代に生れた生佛と申し囃し、何れも有難涙にかきくれて御恩の程を感銘して居りまする、然るところ茲に先生の眞似を致す不思議な者が現はれて參りました、と申す譯は舊臘押し詰つての二十八日、二十九日の兩夜、何處からともなく大八車に米俵を山の如く積上げ市中に於て最も難澁致し居る、町々を挽き廻つて、一人にの危急の苦腦をお救ひ下さ就き、白米三升餅一斗五升れた者であらうと、いや恐宛各戸毎に施して歩いた者にもつかぬ噂をいたして居がございましたが、宰領はれも店員風、其の後に覆面出で立ちの武家一人俳諧師か茶の湯の師匠とも相見える老人一人が附添ひ、何かと指圖を致して居つたと

やら、其の事を同役の諸色調掛が聞込み不審に存じ色！』

と言つて一座を見廻すと一人として不同意の者はなく一向に正体が知れませぬ

床の間を背に正座した大市中の富豪さらずば在家の郷士などでがなござりませう、是即ち卒先して善行の鑑を示された先生の感化德

『客年の十月、先生が御秘

小泉は乘り出して

『何とすりや命を……命を

現、でなければ日蓮上人などが假に姿を現はして、此の危急の苦腦をお救ひ下さ

意深く聽き取つた。

『外に何とか申して居るか

『されば、もし神佛であらう大方先生の御盛德に感じ入り見樣見眞似の施與を致すあらう、其の聖人のお爲めに助けられた命ちやに依つて萬一御用とあれば何時にても差上げまする、と個樣に申し唱へて居りまするそ

孤ならずの聖言は誠に人を

『さればでござる、いづれ天照太神宮か觀音薩埵の化

差出しても其の恩義に酬ゆるとか？ウツフツフ』

大鹽は如何感じてか得意の笑にゆらぐ眉、緊つた唇

『思ふ壺ぢや』

ぽんと膝を打つ

『いや、先生』

末座からきい〳〵聲を振り立てた者がある。

『左樣な詮議立ては無用でござる人事よりも吾事、市中の人望膨しく時機已に熟した今日何故速に事をお擧げにならぬ、一刻も早う軍門の先駆けいたして目覺ましい功名手柄を御覽に入れたい、失禮ぢやが、お氣が長い、因循でござる』。

ラヂオ

……二十六日（日曜）……

仙臺　JOHK

△前九、〇〇A　氣象

△九、一〇A　榮養料理（野菜の炒り煮）榮養研究所

△九、三〇A（子供の時間）本郷尋常小學兒童

△一〇、〇〇H　宗教講話（歴史と基督教）東北帝國大學教授文學博士石原謙

△一〇、四〇〇　講演（初めて繪を觀る人へ）山元春擧

△一一、一〇A　謠曲講座（謠の道しるべ）實演…櫻間金太郎　解說…池内信嘉

△正午A　時報　氣象　ニュース

女流大會

△後〇、五〇A　長唄　杵屋五三次　勘榮

△一、一五A　歌澤　歌澤寅

△一、三〇A　清元　清元延富貴葉

△二、〇〇A　義太夫（本朝二十四孝…十種香の段）淨瑠璃…竹本小土佐　三味線…豊澤美佐尾

△二、三〇　六、〇〇A　運動競技（ハワイ大學對慶應野球試合狀況）雨天順延

△二、三〇A　小唄　金子千惠子（野球放送なき場合に限り放送）

△二、四五A　常磐津（三社祭）常磐津丸子　文字三代　三喜松

△三、四〇A　氣象

△四、〇〇　ニュース

△六、〇〇A（子供の時間）（滿洲國少女使節を迎ふる夕）

△六、三〇B　時事解說　大阪朝日新聞社外報部長岡本鶴松

△七、〇〇A　ニュース　氣象　生繭相場

△七、三〇　テレビジョン座談會　司會者東京中央放送局規畫課長苫米地貢

△八、三〇A　ヴァイオリンと管絃樂　日本放送交響樂團

△九、〇〇B　連續講談（加賀評定織田大炊）旭堂南陵

△九、三〇A　時報　ニュース　氣象　生繭相場

夕刊

六月二十五日發行

定價一ヶ月　郵金五拾錢　郵税拾五錢

廣告料　一段　金六拾錢　二段　金一圓　五段　金一圓五拾錢　（國際郵便一行　貳拾錢）

福島縣磐城郡平町　磐城新聞社

發行人　木村

發行所　磐城新聞社

電話平局五番　平郵便局振替口座仙臺五六四番

（日曜祭日翌日休刊）

廣告

安齋外科醫院　平町田町　電四七五番

高久病院　院長　高久忠　平町田町電五一三

藤沼醫院　平町紺屋町電五〇七

市原病院　院長　市原卯太郎　平町田町電一一四

難波醫院　一般內科　醫學博士　難波睦　平町大町新川端（電話五〇二番）

お醬油は……ヤマフル　鹽屋　味噌醬油　たひら正宗　鰹節　食料品　山崎合名會社　福島縣平町　電話（營業部一〇番　本店二七番）

明治生命磐城代理店　山崎與三郎

專門　一般內科　內科ハ何デモ診療致シマス　呼吸器病バカリデハアリマセン　平町南町六五（電話一八一番）　川井內科診療所　醫學士　川井重之　女醫　川井安子

日本で（最大一番　最良）の火災保險　東京海上

一、火事は何時何處で起るかわかりません

一、保險をつける事は災害の起つたとき確實にしかも迅速に保險金の取れる會社に限ります

一、東京海上は如何なる大火の時も又如なる大きな金額でも直ちに支拂をする準備が出來て居ります。

一、東京の大震災の時自力を以つて火災保險を支拂つたのは東京海上只一つであります

一、保險をつけるなら日本一否世界屈指の確實な東京海上を擇ぶことが安全第一であります

東京海上火災保險株式會社　平代理店　阿部石炭商店　阿部政右衛門　電話三七番

產婦人科　午前宅診　花柳病科　午後往診　入院應需　井阪醫院　平町田町（元合津醫院跡）　電話五五九番

奏効的確たる美神淋藥　毒退治ヨーデッ丸　四圓五十錢　八圓　二圓　五圓

地方代理店　山野邊藥局　平町五丁目角

子宮病コシケ　子宮坐藥の王、最も多くの子宮病者の全快者と、最も多くの賞行を示す大評判の美神丸!!家庭で手經に重症の婦人病も秘密に治し、しかも一日當り僅か五錢。

特約　本藥を販賣しないと婦人間に信用なき店と見做されると評判で す　榮せんとする方は今すぐ御取扱ひを。

募集　本舗大阪南久宝寺町　宮內藥舗宮代理店　高橋、丹平、小林、賣藥

價格　二週間分　一八円八十錢　十週間分　三円五十錢

懷中長藥　超仁　粒銀　朗らかな美音・消化と殺菌

從來懷中藥斷然一蹴

特約店募集　二十錢（三百廿粒）　三十錢（四百粒）　五十錢（五十粒）　七百粒）　大阪市西久宝寺町堺筋電話船場五四七

本舗　宮內藥舗

各地藥店にあり

內臟外科一般（入院隨意）　外科花柳病科　平町六丁目（橋際）　木村外科醫院　電話三〇九

生花教授　池ノ坊流　生花を綴切丁寧に御教授いたします、お遊びがてら御出で下さい。　平町四丁目和泉屋旅館　須藤まつの

湯本全町民の生命線
昨日大成功裡に通水す
消火栓の試驗も頗る好成績

湯本町上水道の開門式は昨報の如く昨二十四日午前十時から好間村内之草の取入口に於て關係者多數立會ひ小泉町長の手によつて行はれたが頗る順調に通水し傾城山の貯水池は夕刻迄に滿水したので試みに最寄入山第四坑入口踏切前の消火栓を開いた處之亦冲天の勢を以て迸出し何れも非常な好成績であつたと

井上、野崎、藤田三氏
滿鮮視察講演會
廿八日聚樂館で開催

井上、野崎兩縣議及藤田在郷軍人分會長の滿鮮視察報告講演會は町及軍人會、青年團聯合主催の下に二十八日午後一時から聚樂館で開催されるが閉會後住吉屋本店で三氏の慰勞宴を張る豫定である

各地繭市況
廿四日

四倉　白總貫數千九百九十八貫、最高二十六圓十錢、最低二十圓二十錢、買馴二十三圓三十九錢、黄總貫數六百九十四貫、最高二十五圓五十錢、最低二十一圓

鹿島香取　水戸運輸主催鹿島香取神宮參拜團出發

參拜團体は今二十五日午前五時平驛を出發したが平驛から三十五名の申込あつたと

植田　白總貫數五十二貫十錢、最高二十五錢、最低二十圓、買馴二十四圓五十錢、黄總貫數二千六百二十八貫、最高二十六圓五十錢、最低二十四圓、買馴二十五圓

泉驛舍改修
八月初旬頃竣功

泉驛の建物は最近腐朽甚しいので改修する事となり此程入札の結果工費二千圓で岡田長太郎氏に落札し昨二十四日着工したが竣功は八月七日の豫定である

僅か四、五、二ヶ月間に
中途退學生六十四名
今後を懸念する各校當局

平町各學校生徒の中には今く二十九日役員會を開催し動車、馬車等に破壞された學期に入つて以來家庭經濟の不如意から已むなく中途にて退學する者が多く平商は四月四名、五月二名計六名、平第一校高等科四月十一名、五月二名計十三名、第二校四月二十五名、五月四名計二十九名、磐女三名磐中十三名で僅か二ヶ月の間に合計六十四名といふ多數に上り關係者は今後を憂慮してゐるが之等の救濟を目的とする磐中の篤志會は三十餘名の會員を得たので去月から行ふ筈であつた三名に對し今月から給費すべ

平商（月謝三圓五十錢市外四圓、修學旅行積立五十錢、校友會五十錢、商友會二十錢計四圓七十錢市外五圓二十錢）
小學（月謝八十錢）
磐女（月謝三圓八十錢、修學旅行積立一圓計四圓八十錢）
磐中（月謝四圓、旅行積立五十錢、校友會五十錢計五圓）

「三ヶ月不拂ひ」へ
道路は壞れた儘
教員
山田村昨今の窮迫振り

山田村では村税の滯納から極度の財政難に陷り小學校教員の俸給不拂ひ既に三ヶ月に及び隨つて自二大隊長）に導かるるまま

滿洲行
藤田中尉（第十三信）

◇語らへ（續）

直路奉天ひつつ驛前の廣場では九月から三ヶ月間仙臺市で開會される第十回工藝指導員傳習生を募集中である

見る間に川
豪雨中の役場附近

今二十五日午前十一時頃から俄に通水し傾城山の貯水池は夕刻迄に滿水したので試みに最寄入山第四坑入口踏切前の消火栓を開いた處之亦冲天の勢を以て迸出し何れも非常な好成績であつたと

御倉番使用の珍しい時計

◇第二校に陳列

平第二校では安藤公時代御倉番が使用したといふ七、八十年前の螺條式時計を郷土室に陳列したので生徒等は珍しがつてゐる

四百反の贓品は情夫が賣り歩く
燕のお千代捕物帳

既報—二十二日平署に檢擧された女賊内郷村宮金坂居住福島市陣場町生れ佐保初太郎内縁の妻燕のお千代事前科四犯森田千代（五二）は平署で嚴重取調べた結果同人は昨年十一月以來内郷村を中心に橋本屋呉服店外數軒から殆ど連續的に百數十回に亘り反物類四百餘反（價格千圓）を窃取し贓品は情夫の同宇呉服行商野澤淺吉（四三）が背負ひ行商して處分し之の賣上金を二人の遊興費に充てて居た事が判明し野澤も今二十五日檢擧され三臺の洋車（人力）を連ねて同氏官舍に入つた、其夜廿九聯隊

◇將校團の主　催にかかる吾々八名の歡迎會が市内の某料亭であつたが徵恙あるが記念とあつて私の書畫帖には平田聯隊長始め將校團各位の墨痕が鮮かに揮毫せられて居た、藤井少佐の御厚意に感謝して止まない。（六月三日夜半藤井少佐邸にて）

撫順のポスター戰

◇奉天の旅舍　に初の一夜を明かした一行は市内の實狀調査をする暇もなく早凝つた意匠のもあつた、滿洲一の歡迎會が市内の某料亭であつたが徵恙あるが、一時間餘で着いた人數に上り關係者は今後を憂慮してゐるが之等の救濟を目的とする磐中の篤志會は三十餘名の會員を得たので去月から行ふ筈であつた三名に對し今月から給費すべ

◇日本の婦女　子の往來も繁しい市街の土塀や煉瓦造りの外廓や店頭の入口等は人の他の都會地に比してもかなり多い方である。從而街頭には

◇平和の表象　鳩のマークのはいつたこんな英文の文字の國、文章の民族口先へたのだ、事變勃發前日支關係急迫して支那は旺んに排日排貨、遂に毎日抗日の餘り刺身庖丁を振つて兩人を刺し瀕死の重傷を負はせた

△夫婦別居悲劇　福岡市吉田町某賣藥店外交員中原武吉（四〇）は妻キヨカ（三四）が病氣保養の爲別居してゐるのが淋しく、加へて店の金を使ひ込んだ事からフーとなり妻を訪れて子供の留守を窺つてキヨカを出刃庖丁にかけて慘殺し自分は腹

窃盗が依然首位
植田署の犯件から觀た世相の斷面

植田署に於ける去月中の犯罪統計を聞くと窃盗が十九件で依然として首位を占め詐欺、横領各三件、傷害、賭博、住所侵入各二件計三十一件で昨年同期に比し四件の減少で内二十二件を檢擧した、而して窃盗の手口は戸締りの油斷に乘じたもの五件、合鍵使用三件、其他で時間は正午頃からの空巣狙ひと午前六時頃迄の熟睡時間に行はれ詐欺は無錢飲食が最も多く被害物は米麥七件、鶏五件被害見積金額は三百十圓四十八錢であるが田植も一段落ついたので明二十六日午後二時から同所に於て閉所式を擧行する

△誤　正　昨紙『前借踏み判』の記事中逃走酌婦佐々木初代（三）の勤め先四倉町料理店小松屋とあるは同町仲町竹の家の誤りに付訂正

今度は磐中で盗まる
學校荒し出没す

磐中教員室へ今曉一時頃侵物色し教員の運動衣、印鑑入し臘燭を翳して各方面を

平町慶弔錄

△出生
月み町一九炭越羅多賀郡日高村田尻一九七九根本正尚五男豊仲間町七二永戸村波戸ナラ木六五會田勇三女文子

見て拾つた話 —(19)—
農村と町の明暗
下された公平な斷榮

タヒラで

蔭が貫當り幾ら飛。百姓と異つて頸は廻るの缺損。食ふ米がメード、イン、ヒタチ。十二無くなつた。田螺でも捕つて食ふ外無い——農民は借ぢや無い、ドライ、アイス二千六百二十八貫、最高二十六圓五十錢、最低二十四圓、買馴二十五圓金で頸が廻らぬ、火の車だ

×

そこへ持つて來て瓜かな唸りを立て乍ら、潮風のやうな萬斛の涼快を送る扇風あつた

磐中校外監督　平商磐中では上級生が時潮くカフエー入り等によつて往々風紀を紊す惧ある季節となつたので毎日教諭が夫々監視の任に當る事になつた

疲れ果てて全く生活の火の消え盡した農村の委と、谷川瀬田圃一つ距てた、百潜んで居ないと誰か云ひ切るが、慰めが、諧調が、明るさを、明かなる流れの下に、ふとあとは異る極めて苦いものであつた。

%文化華やかなるタヒラの生活。乳白色のジャンデリアの下に描き出されたカフエー光景——とそれは餘りにも當てつけがましい1932年の明暗である。

×

だが併し。例へば星あかり一つない暗夜にすら、ふと微かなる殘んの明るさを見出すやうに、その底知れぬ暗の農村に、希望が、明るさが、諧調が、かなる流れの下に、ふとあとは異る極めて苦いものであつた。

×

終日の畠仕事から歸つて出浴の後れ髪を夜風に嬲らせ乍ら、一盃のあがり酒に萬鍵押しの疲れを癒やした模範青年と、心ゆくばかり語り合ふ事は農村の男女青年團員にのみ許された涙ぐむ一盃のヂョッキは星影暗き小川のほとり一對の青年心から小學生藤田好枝（三）を羽掻ひ絞にして押し倒して劣情を滿喫したと

△浪路ゆく男女　函館市萬代町一宗谷作次郎養女山本ハナ（九）と弘前市茂森町一四六高坂小次郎（二六）といふ船乗りと深い仲となり、高坂から嫁にくれと申込んで拒絶されたので高坂はソンなら俺の船で消へてなくならうとてハナを連れ何處かへ逐電して行つたと

△男私娼が繁昌　警識の程度が低いといふのか田舎では未だ若き男女の密會は誰もが默認してゐるエロで名高い淡路岩屋町長濱吉屋周吉（五）—假名—は女房に死に別れて以來男私娼を始めたところ漁師の女房、寡婦、お轉婆娘と千客萬來

事が暴露されるやうに、文化華やかなるタヒラと云ふ地方都市の裏にも幾多の暗さの潜んでゐる事は都會自身がよく知つて居る。

×

髮の長い『イデオロギー』でも親族の木陰は懷しく歸宅したが、里人が相手にせぬのでムラ〳〵と起つた惡厄介にも一年四ヶ月、それ深安郡神邊町宇川南無職和田濱一（三三）は餓鬼の時から手癖が惡く少年刑務所の御世話になつたが、出獄後の行狀は良好で今年三月十日仮釋放となつたが、一昨二十三日同時刻平商に侵入した同一犯人と目星をつけ其筋では目下嚴探中である

高坂に賊　内郷村大字高坂五六本田勇三郎方では二十四日深更賊の爲衣類數點價格三十圓を窃取された

磐城炭鑛專用軌道倉庫から二十三日ボート二十五本を窃取したものあり本日平署へ屆出あつた

九品寺托兒所閉鎖　平町九品寺では去る十二日より農繁期托兒所を開所中であるが一昨二十三日同時刻平商に侵入した同一犯人と目星をつけ其筋では目下嚴探中である

磐城炭鑛專用軌道倉庫から二十三日ボート二十五本を窃取したものあり本日平署へ屆出あつた

優勝盃爭奪
庭球試合

平鐵道倶樂部主催の優勝カップ爭奪庭球試合は二十六日午前九時から保線區コートで開催されるが參加チーム二十組に達し盛會を豫想されて居る

カフエー女給
レヴユー團
世界館に出演

平町各カフエーの女給同好者二十數名は過般來レヴユー團を組織し練習中であつたが來二十七日より四日間世界館に出演し收益を愛國機に獻金するとの

各地情痴スーユニー

△老機關士の戀　愛知縣知多郡横須賀町生れ住所不定機關士勳七等功七級平松太郎（五七）は元の情婦安藤たけ（四六）が新情夫服部民三郎（四五）と樂しい夢路をたどつてゐる現場を目擊し逆上し刺身庖丁を振つて兩人を刺し瀕死の重傷を負はせた

△夫婦別居悲劇　福岡市吉田町某賣藥店外交員中原武吉（四〇）は妻キヨカ（三四）が病氣保養の爲別居してゐるのが淋しく、加へて店の金を使ひ込んだ事からフーとなり妻を訪れて子供の留守を窺つてキヨカを出刃庖丁にかけて慘殺し自分は腹

死の重態

△ヤケのエロ漢　廣島縣深安郡神邊町宇川南無職和田濱一（三三）は餓鬼の時から手癖が惡く少年刑務所の御厄介にも一年四ヶ月、それ

△婚姻　東京府北豊島郡南千住町三丁目一二七千葉縣東葛飾郡七福村君品五二坂富政雄（三〇）平町道匠小路二一山名ミツ（三〇）

諸判定應需　東京市本郷區湯島四丁目五番地　高島易斷總本部　神誠館

舊五月　日曜　戊午　先負　建　十三日　星宿　六十二月二日

▲一白の人　腕次第にて美事に發達を遂げ得べし病注意　▲二黑の人　緊張を欠けば意外の點より破たんを生ずべし▲三碧の人　一事に心を集中し努力すれば大吉となる日▲四綠の人　薄運にして不滿の日を過すべし病厄警戒▲五黄の人　勇氣に任せ力をはかる事を忘れば凶害あり▲六白の人　事業の手を擴げて力餘りを生ずるに至る日▲七赤の人　苦勞の枚數を拂ひ溜しても根のこが如し▲八白の人　中吉中凶の日柄にて無理せざればとがはなし▲九紫の人　上運なれど他より壓迫せらる親交大切の日

恩給年金簡易保險即時立替
無盡通帳其他債券賣買
平町一丁目一四番地
鈴木重藏

一番よいよ盡
無盡は年三
湯本信用無盡

御料鹽豚（コーンポーク）
田町　三二三肉店
電ワ三二三番

吉田眼科病院

胃腸病の藥の王座を占むる純漢法藥
松前傳靈効散　無効返金
ホントに北海道で出來た靈藥が着荷致ました。今迄の福島市で製藥したので兎角の批評ありましたが今度のものは眞正のもので奏効確なものです服用しなくては其の眞價が判りませんから皆様へ見本を差上ます。御遠慮なくいらして下さい！見本品でも二日間飲まれますから輕い病氣なら治つてしまひます。小兒用の靈効散も出來ました。胃腸病に苦しむ方、腦病、心臟病、痔疾の方は是非御試し下さい。クセにならず根治致します。
定價……試用分八日分一圓　輕症用廿日分壹圓　重症用四十五日分貳圓
五十錢
靈効散賣販部　平町古殿治町（縣社の下）地方代理店　阿康藥舗（電話四四番）

井上
野崎
滿藤
作
茂
藏

セダン揃ひで！
賃貸切専門の！
昭和タクシーへ
三四三三番